



錦昇  
文庫  
由  
負  
魚  
種  
素  
作  
河  
竹  
砂  
毛

二十編下



由  
一  
子  
部  
日

二十編上

升  
題  
曲  
五  
國  
刻





部子

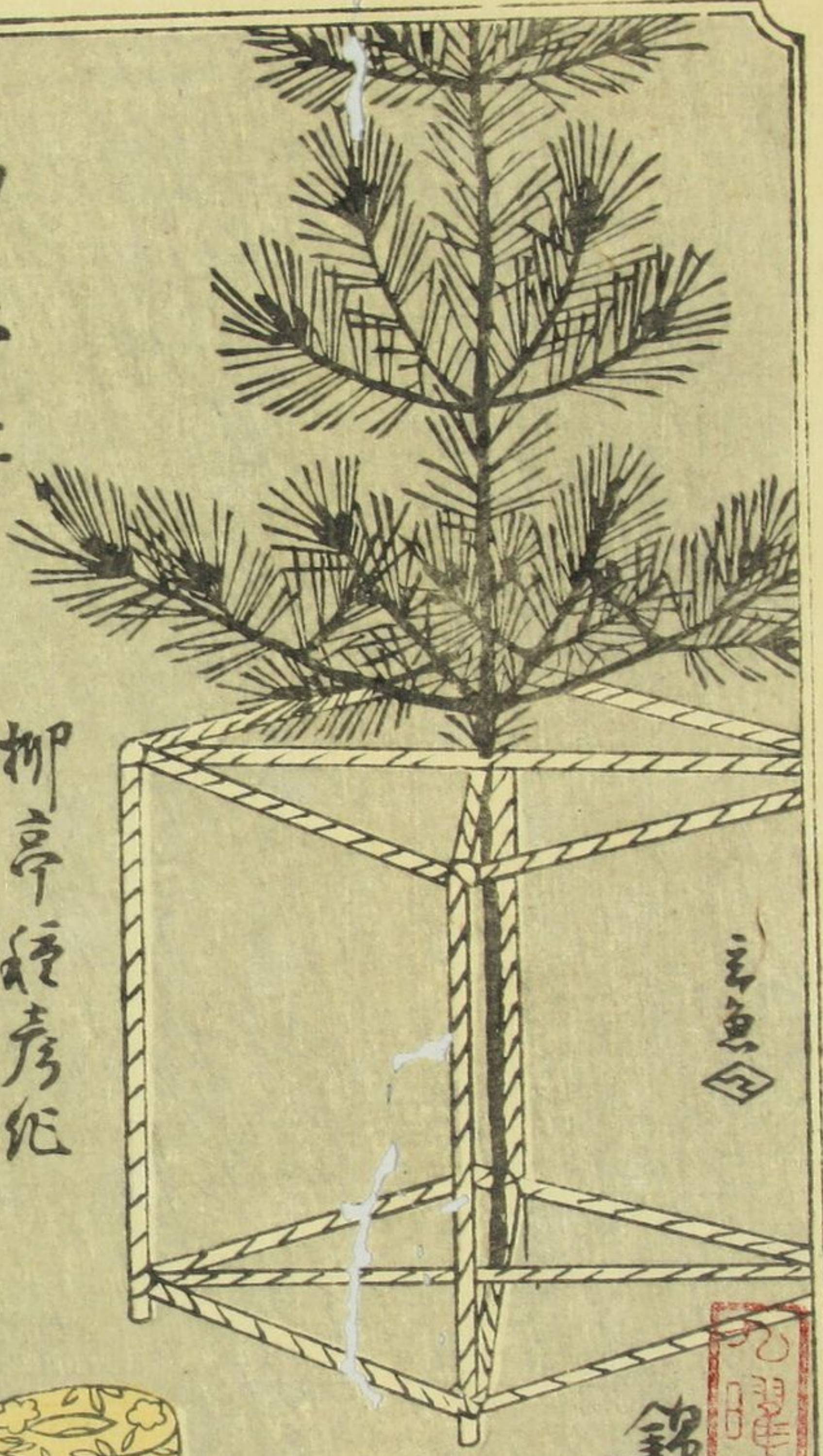
一生

二十編上

升題曲五國



曾能造  
深理 寸編上快  
柳亭經彦氏  
款川國貞画



錦  
昇  
藏  
持

紅葉や落葉の話しよりて不図思出なる、近頃京にて工夫せし雜伎有能狂言  
かと思ふ、内小歌舞伎の踊所作事不変るを青葉の紅色不染るに比し、  
てり、もと稱擬紫の趣向是とむる、く本文ハ因循と綽約ある、姫君や、  
都雅ある、即君の濃体くして甜美所計ふて、勇た、と諸所不修羅場のやうな  
約と雜へ、元氣を補へ、故翁の案、妙といふ、其の上、手ふまは、思草が  
手際ふて、猿樂あつて、カフキなれば、これ一段、もうござらぬ、とらん不着の間語罷  
出る度、同、顔智計で、滅を、謀叛人の志を、も、毎編異ね、作我さ、不厭、く、い、  
是の、う、いと、り、と捨を、計、あ、り、花も、り、實も、ある、紫文の、趣、朝、さ、う、蛇の、足、を  
あ、る、う、う、漆、糸、の、透、逸、と、して、長、む、の、せ、び、数、十、部、重、ね、す、五、十、四、帖、の、全、部、不、満、尾、ん  
と、本、編、ふ、て、横、笛、の、巻、も、畢、り、ぬ、れ、ど、少、し、の、即、真、ある、も、は、落、葉、不、混、る、松、の、葉、乃、  
緑、の、葉、に、も、あ、る、ん、の、と、陶、の、凶、徒、平、治、の、時、より、故、あ、ら、う、の、松、與、の、身、は、さ、あ、り、ハ、鈴、虫、の  
巻、迄、の、乃、草、の、花、開、出、る、七、月、の、末、盆、桃、燈、の、あ、り、と、假、り、て、序、さ、け、を、夜、延、り、

文久二年  
壬戌春

種  
六  
尺  
識  
ス



横ふえふ  
あふふ  
絵巻の  
巻巻外

ど  
おひ  
ま

に其のうまをせら  
野よくあ  
ちと

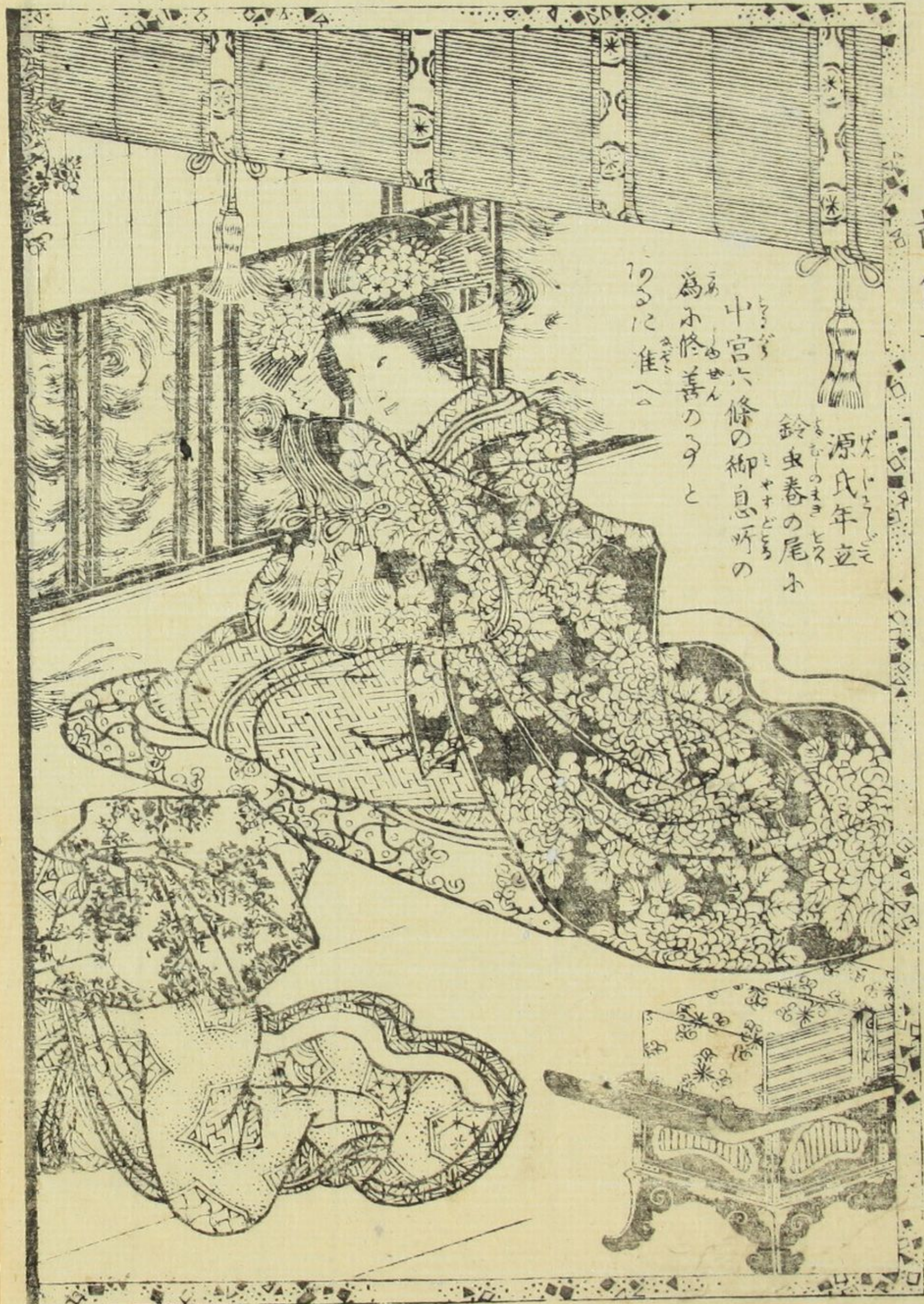


源  
長賀鏡  
北村季吟

置  
作  
二

はむしのをに  
西の渡殿の  
春乃まの終  
へ乃

きの  
おの







えのりのうらみ  
まのり本をさる  
竹中かえの  
かすこさる

こす  
あつ  
えん  
うら  
まの  
あつ  
えん  
うら  
まの

あつ  
えん  
うら  
まの

あつ  
えん  
うら  
まの

あつ  
えん  
うら  
まの



あつ  
えん  
うら  
まの

あつ  
えん  
うら  
まの

あつ  
えん  
うら  
まの

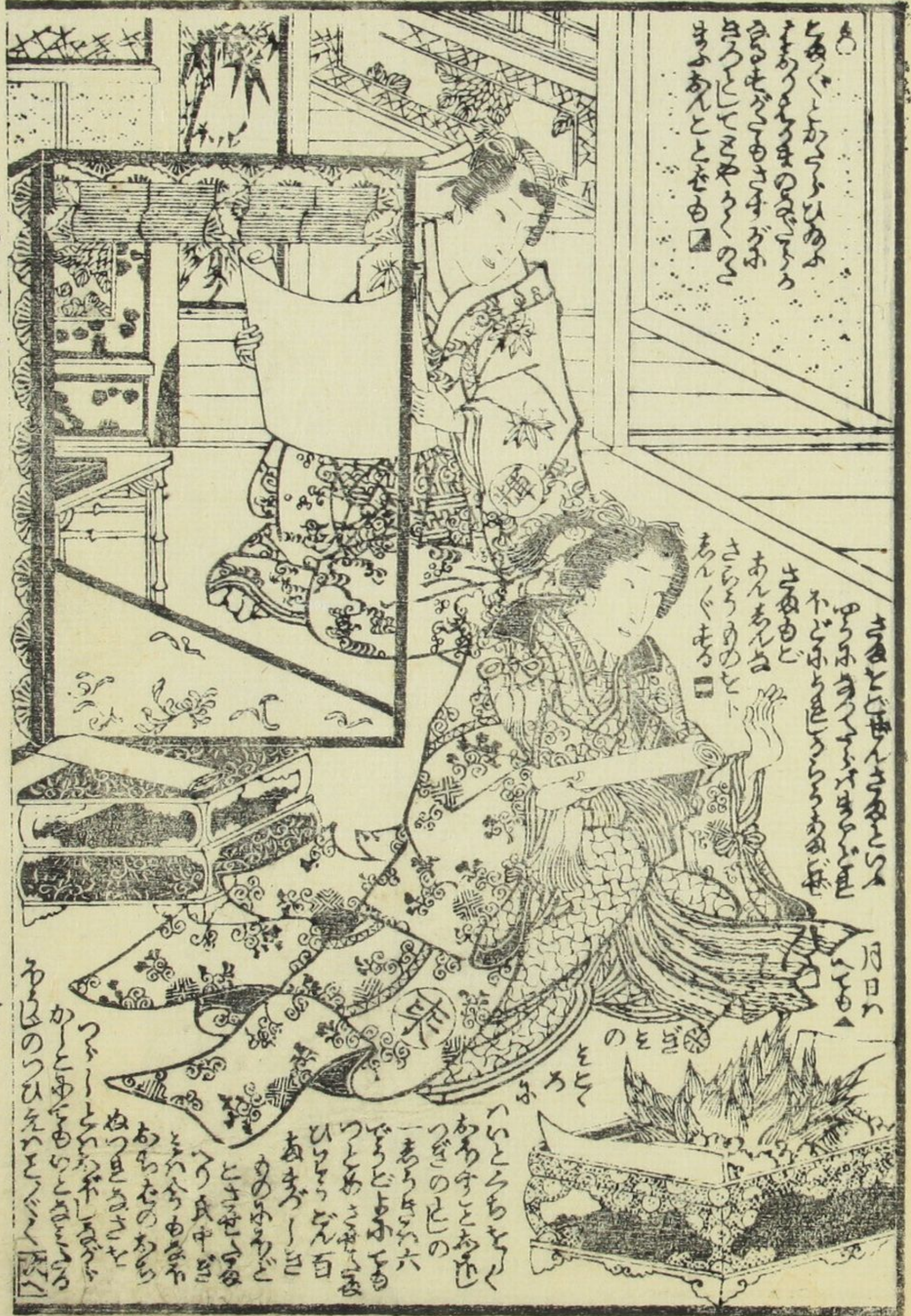


**小野の山寺の老僧**  
 此の老僧は、昔は名僧として知られた者である。彼の修行の厳格さと、人々を導く徳行が、多くの人々を慕わせた。然るに、時勢の移り変わりと共に、世間の浮世離れが深まり、人々の心も固くなり、かつての如くはなれぬ。老僧はこれを見て、嘆息を絶えず。己の生涯を振り返り、世の無常を悟り、静かに静養を怠らぬ。此の老僧の姿、見る者は必ず心を打たれる。其の徳行は、今も語り傳へられてゐる。



**此の画面**  
 拍之助の小練忌の法會と赤松高尚の邸でつとむ所



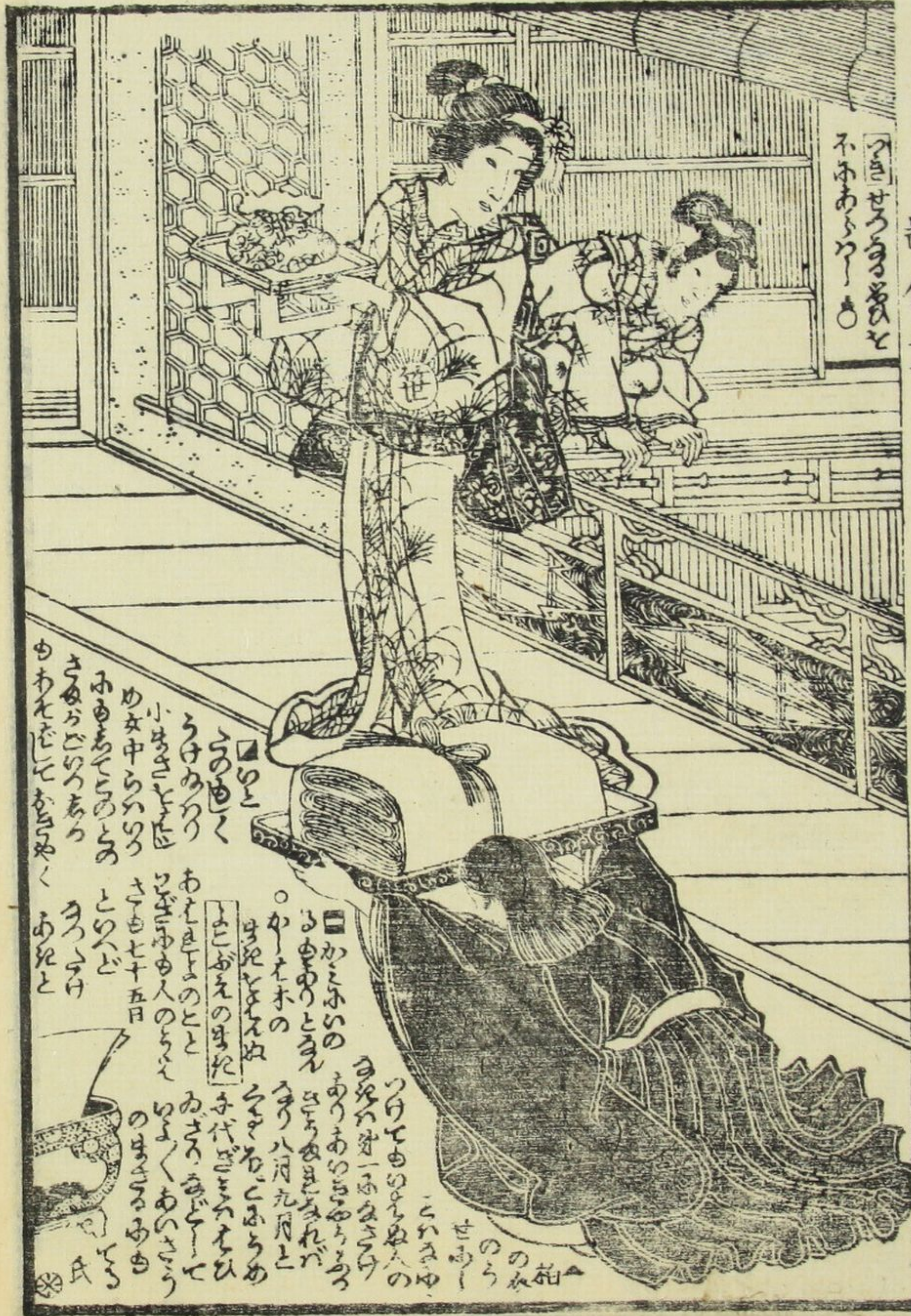


とてくゝかゝらひあふ  
 まあつらまのあひら  
 らるまごもよすぢあ  
 ちつしてまやうく  
 まあんとをよ

さあといはんさあといふ  
 ちつらあつらまのあひら  
 らるまごもよすぢあ  
 ちつしてまやうく  
 まあんとをよ

月日  
 のと  
 ちつらあつらまのあひら  
 らるまごもよすぢあ  
 ちつしてまやうく  
 まあんとをよ

下巻二



いせろあつらま  
 不ああつらま

さあといはんさあといふ  
 ちつらあつらまのあひら  
 らるまごもよすぢあ  
 ちつしてまやうく  
 まあんとをよ

いせろあつらま  
 不ああつらま

下巻二



木下二一

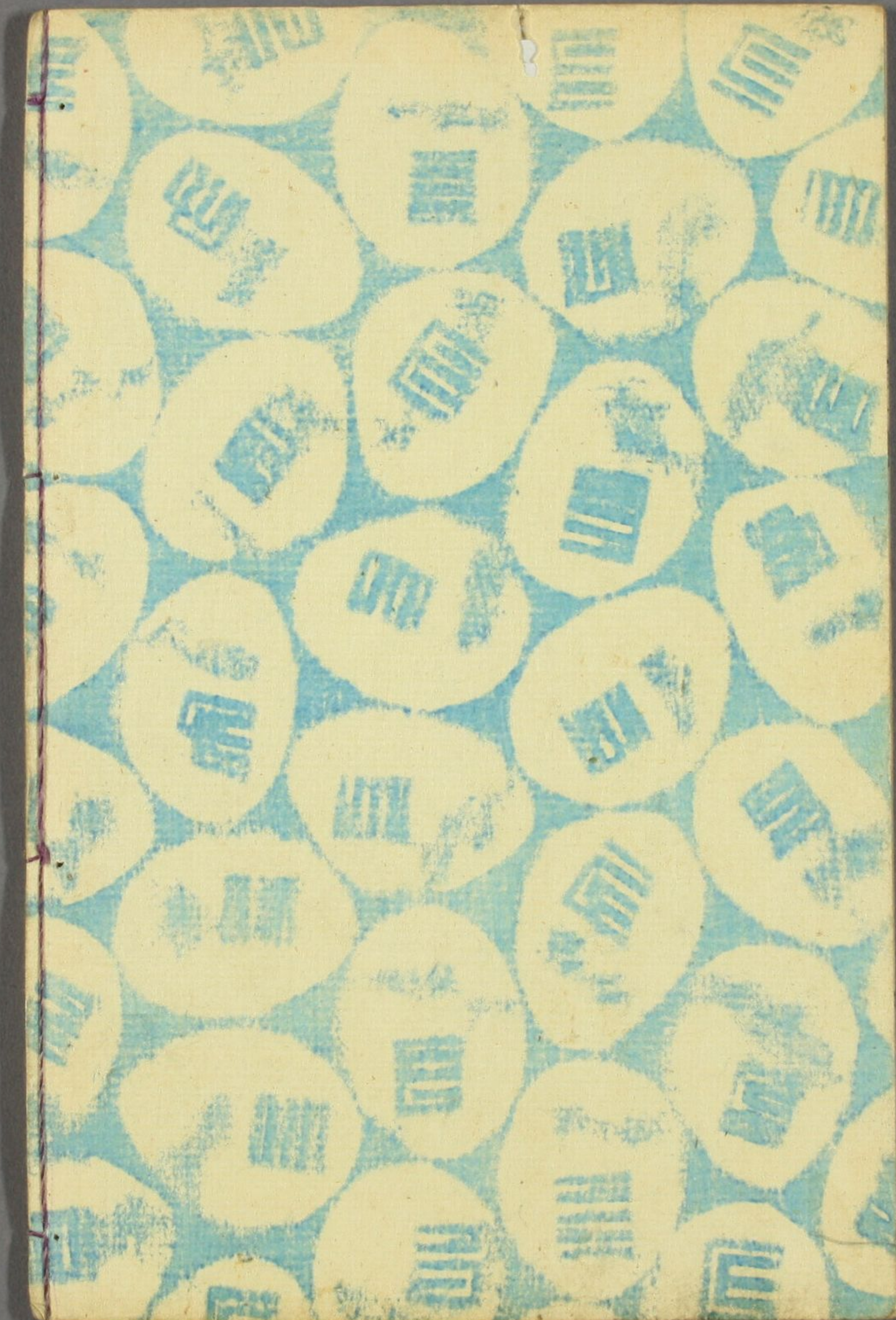


品位二一









砂色

一ツ

種彦作

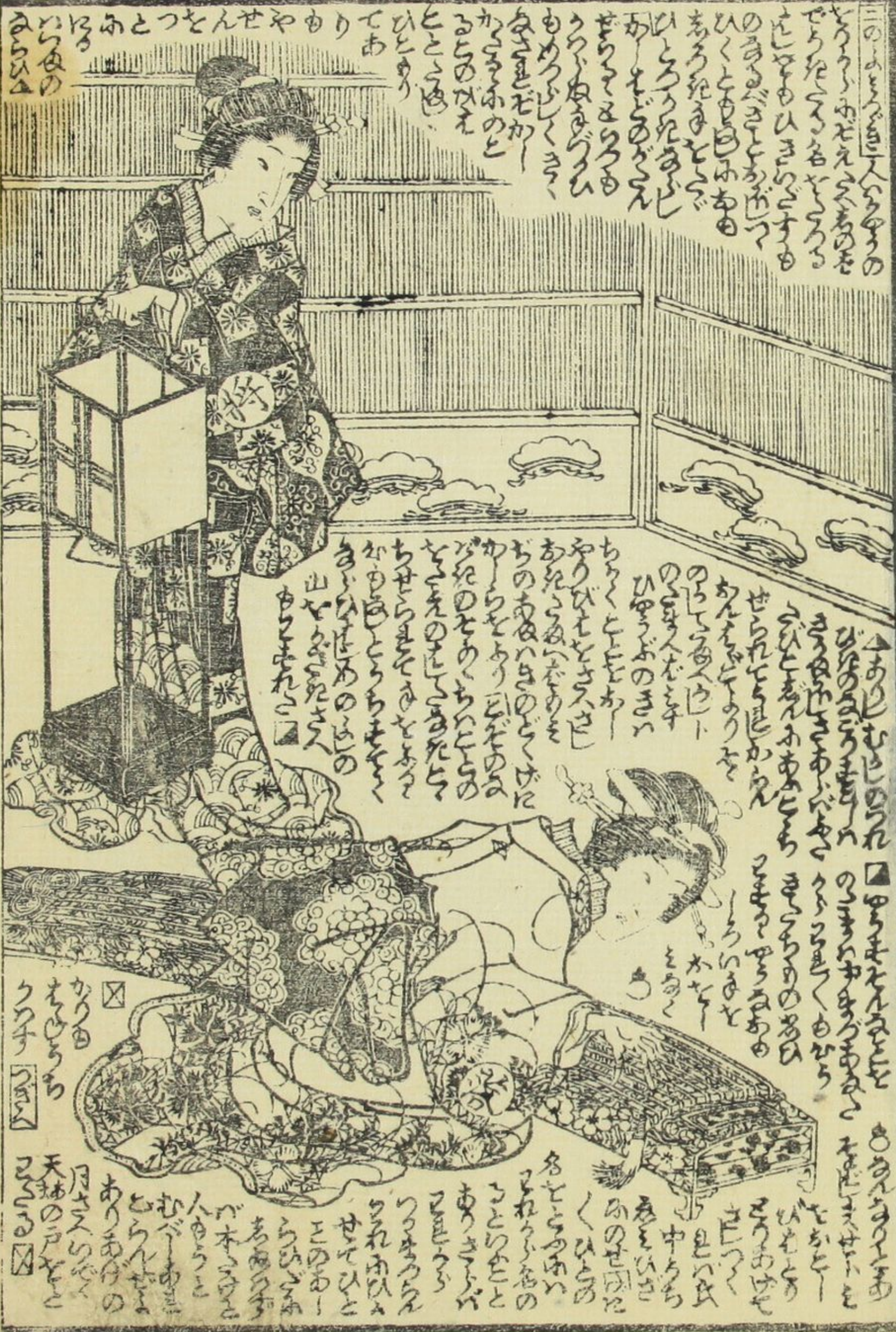
田真画

錦昇

文庫

二十編下





三のふとつとんせやゆりてあひとあり  
 りるふとつとんせやゆりてあひとあり  
 りるふとつとんせやゆりてあひとあり  
 りるふとつとんせやゆりてあひとあり

ふとつとんせやゆりてあひとあり  
 りるふとつとんせやゆりてあひとあり  
 りるふとつとんせやゆりてあひとあり  
 りるふとつとんせやゆりてあひとあり

ふとつとんせやゆりてあひとあり  
 りるふとつとんせやゆりてあひとあり  
 りるふとつとんせやゆりてあひとあり  
 りるふとつとんせやゆりてあひとあり

ふとつとんせやゆりてあひとあり  
 りるふとつとんせやゆりてあひとあり  
 りるふとつとんせやゆりてあひとあり  
 りるふとつとんせやゆりてあひとあり

ふとつとんせやゆりてあひとあり  
 りるふとつとんせやゆりてあひとあり  
 りるふとつとんせやゆりてあひとあり  
 りるふとつとんせやゆりてあひとあり

三

ふとつとんせやゆりてあひとあり

# 部の俵

## 貳拾編下帳

板 久 作 右 年 飛 古  
 久 仁 左 方  
 繪 久 仁 左 方  
 板 久 仁 左 方

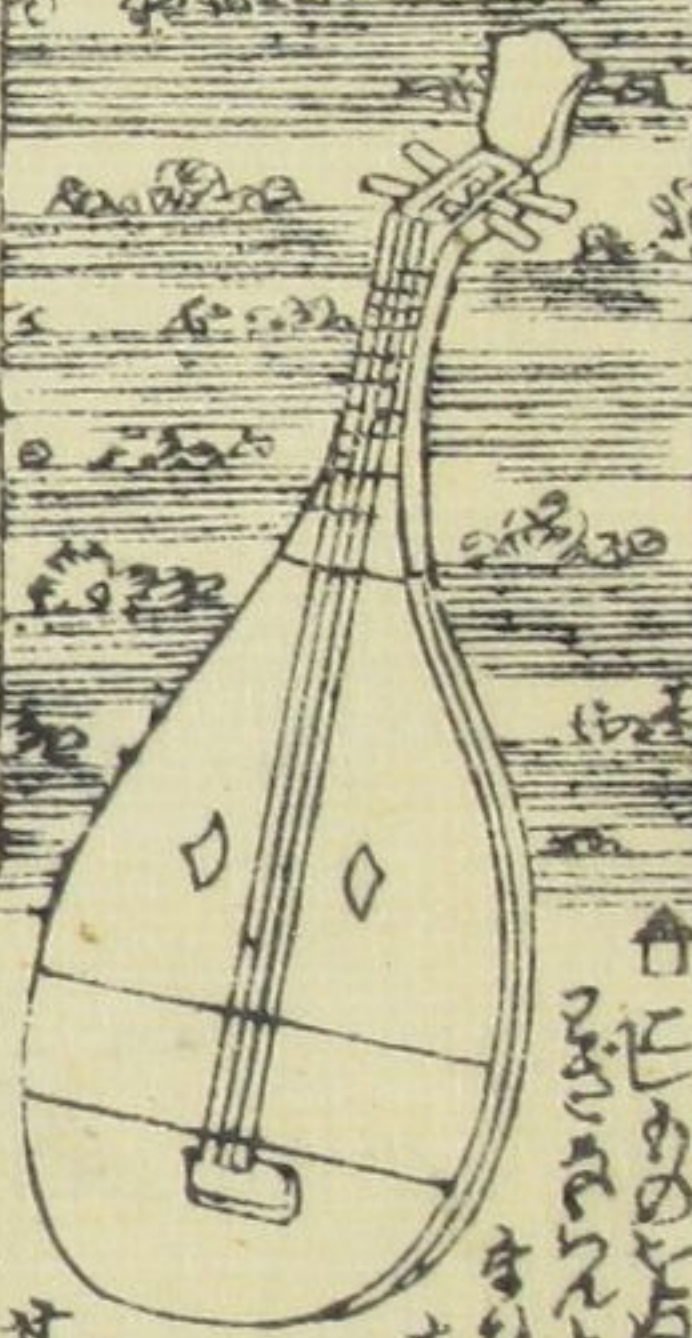
三



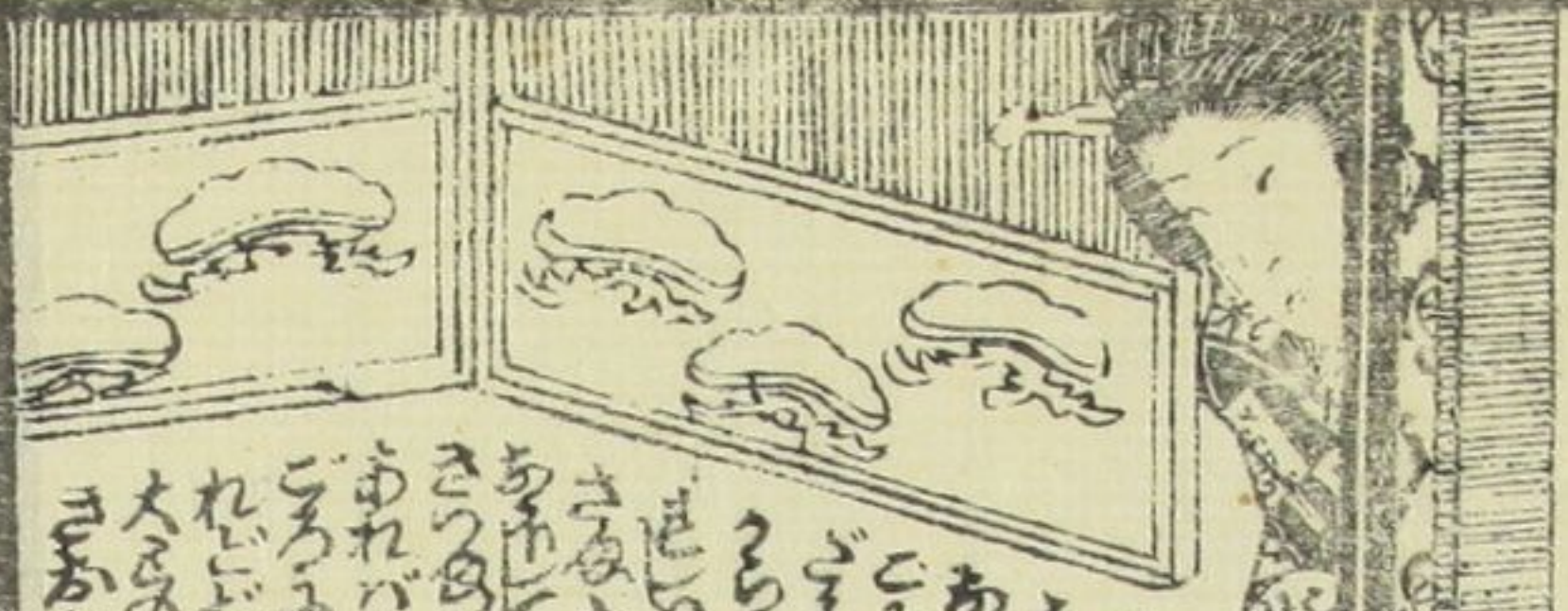




此の曲は...  
あつちの...  
あつちの...  
あつちの...



あつちの...  
あつちの...  
あつちの...  
あつちの...



あつちの...  
あつちの...  
あつちの...  
あつちの...



あつちの...  
あつちの...  
あつちの...  
あつちの...

あつちの...  
あつちの...  
あつちの...  
あつちの...



あつちの...  
あつちの...  
あつちの...  
あつちの...

あつちの...  
あつちの...  
あつちの...  
あつちの...







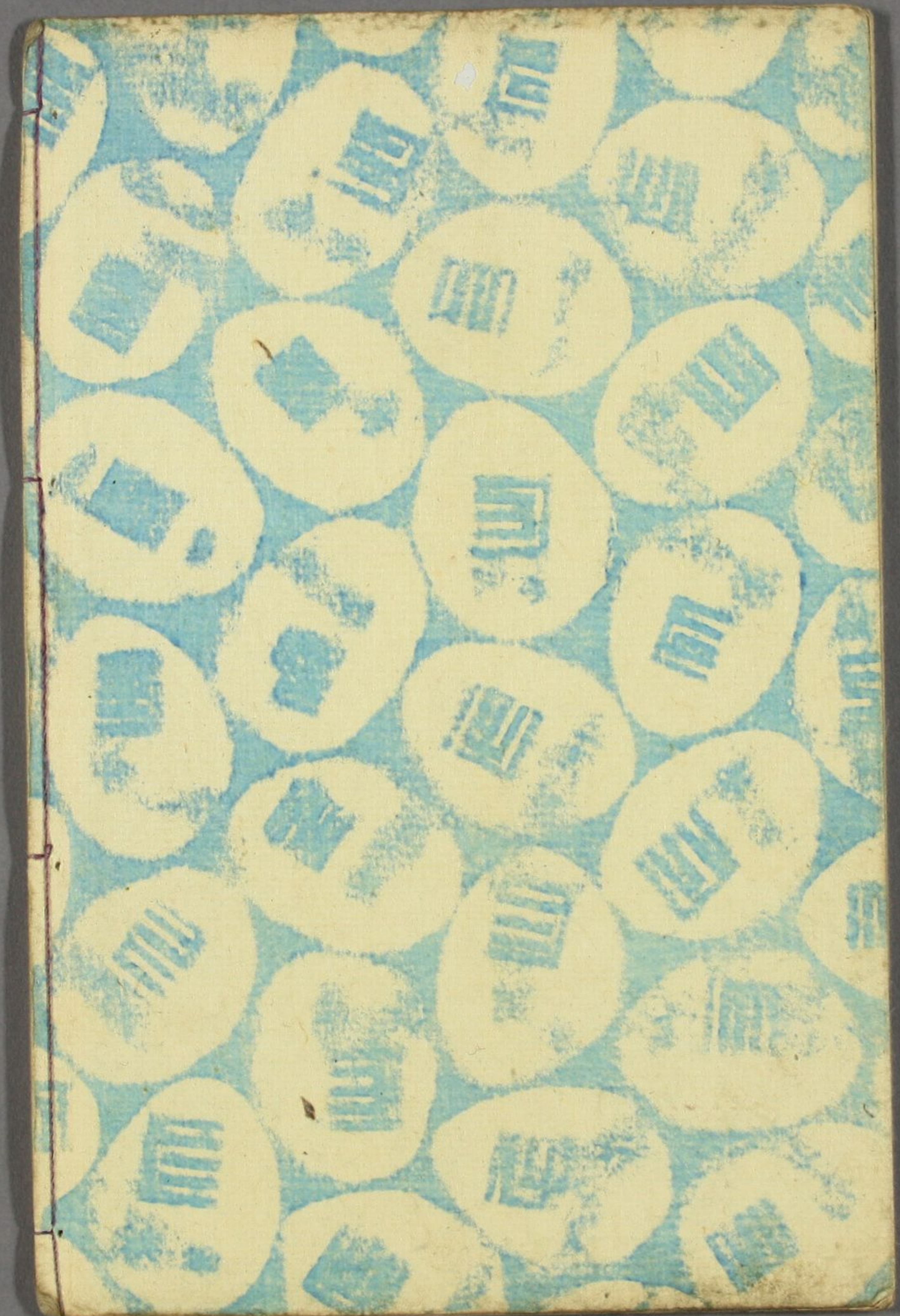












其 生 縁  
 都 の 併  
 第 一  
 女 編



堀 江  
